

クマによる人身被害調査報告書

| | | |
|----------|-------|--|
| 事故概要 | | JR 沼田駅東口の公衆トイレ出入口付近で、夜間にトイレを利用した男性がクマと遭遇して右足を負傷した。 |
| 発生日 | 日時 | 令和7年11月28日（金）1時20分頃 |
| | 天候 | 晴れ |
| 発生場所 | 住所 | 沼田市清水町3155 JR沼田駅東口公衆トイレ |
| | 環境 | 住宅地・駅前・公衆トイレ |
| | 山／里の別 | 里 |
| 被害者 | 年代・性別 | 69歳 男性（会社員・警備員） |
| | 被害状況 | 軽症（右足ふくらはぎの裂傷、右膝・踵の擦過傷）、破傷風予防接種・消毒後に帰宅 |
| 加害個体 | 頭数 | 1頭 |
| | 大きさ等 | 体長約1.4m |
| 事故状況 | | 被害者が公衆トイレを出ようとした際、入口前にクマが現れて飛びかかるとする動きを見せたため、驚いて後方へ転倒した。転倒の直後にクマが前足で右足ふくらはぎを引っ掻き、被害者は膝や踵にも擦過傷を負った。クマはすぐに立ち去り、被害者は駅前交番に駆け込んで保護され、救急搬送の処置を受けた。 |
| 事故の原因・考察 | | <p>市街地周辺の河畔林や藪が、クマの一時的な移動経路となっており、夜間の人通りが少ない時間帯に駅前へ侵入した可能性が高い。しかし、藪から離れた沼田駅前に出没するという行動は、通常考えられるクマの行動としては異質である。</p> <p>今回の事故後の防犯カメラ画像からは、クマが駅北側から来ていたことが示唆される一方、深夜のため足跡や食痕は確認されず、事故後も周辺で継続的な滞在は確認できなかった。</p> <p>本加害個体は、被害者から得られた個体の大きさや被害状況の特異な行動特性からも、9/22 のみなかみ町真庭の事案、10/7 の沼田市のスーパーでの事案と同個体である可能性もあると考えられる。</p> <p>被害者は周辺での出没を認識し、注意していたが、深夜の単独行動でクマ避け装備を携行していなかったため、至近距離遭遇時の回避行動が取れず負傷に至った。</p> |

| | |
|----------|--|
| | 現場は人造物が多く痕跡確認が困難で、偶発的通過の可能性が高いが、周辺の藪や河畔林が大型獣の移動路となっている地理条件が背景にある。 |
| 考えられる改善点 | <p>(1) 被害者側の対策</p> <p>出没が続く期間は、人通りのない場所での夜間の外出を控えるか、やむを得ない場合は一人での行動を避けて複数人で行動し、クマ避けスプレーやライトなどの安全装備を携行することが望ましい。</p> <p>(2) 行政側の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度には同地域で複数頭の捕獲実績があり、本加害個体についても早期かつ的確な捕獲が必要である。被害状況や過去の出没履歴から、同一個体の可能性が高く、さらなる被害防止のため早期の対応が求められる。 ・事故現場周辺は河岸段丘や河畔林が連続し、大型獣が人目を避けて市街地に移動できる環境にある。このため、藪や林の伐採により滞在場所や移動経路を遮断することが有効であり、行政が主導して実施することが望ましい。 ・高齢化や生活様式の変化により、庭や畠のカキやクリが収穫されず放棄される木も多くみられる。伐採は高所作業となり困難なため、結果として放置されることが多くなるため、電気柵補助と同様に、伐採費用の補助や行政による伐採推進が必要である。 ・今回の加害個体は警戒心が高く、深夜に移動しているため、目撃情報の収集と並行して監視体制を強化する必要がある。具体的には、林縁や過去に出没が確認された河岸段丘・河畔林に自動撮影カメラを追加設置し、動向を把握することが望ましい。市では既にカメラを設置・追加し、住民協力も得ているが、撮影には至っていないため、監視範囲の拡大と情報共有を継続することが重要である。 |